
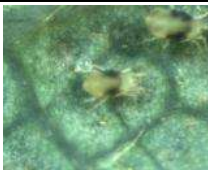




# 病害虫発生予察情報予報第8号

佐賀県農業技術防除センター

## I. 予報の概要

作物名	病害虫名	11月の予想発生量 <sup>注1)</sup>		病害虫防除 のてびきの 記載頁 <sup>注2)</sup>	予報対象の病害虫 (抜粋)		
		平年比	前年比				
普通作物	オオムギ	網斑病	並	やや多	131~132		
		縞萎縮病	並	並	135~136		
		斑葉病	並	並	130		
	コムギ	シロトビムシ類	やや少	並	137~138		ヤシロトビムシによる被害
		縞萎縮病	並	並	135~136		
		<b>特記事項</b>					
		1. 種子伝染性病害（オオムギ網斑病、麦類裸黒穂病及びオオムギ斑葉病）健全種子を使用するとともに、種子消毒を徹底する。					
		2. シロトビムシ類 常発圃場（コムギ、ハダカムギ等）では、種子粉衣または塗沫処理を徹底する。					
		<b>特記事項</b>					
		1. 紫斑病 適期収穫を行い、乾燥施設へ速やかに搬入する。					
野菜	イチゴ（本圃）	うどんこ病	並	少	194~196		
			<a href="#">病害虫対策資料第14号</a> 参照				
		ハダニ類	並	やや少	204~205		ナミハダニ
	アブラムシ類	並	やや多	210~211			
	<b>特記事項</b>						
	1. うどんこ病 一部の圃場で発生が増加している。発生程度に合わせ約10~14日間隔の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる。（ <a href="#">病害虫対策資料第14号</a> を参照）						
2. ハダニ類 一部の圃場で発生が増加している。薬剤のみでは防除が困難であるため、天敵（カブリダニ類）を併用して防除する。							
菜	ナス	アザミウマ類	やや少	やや多	242		
		コナジラミ類	やや少	並	240~241		
		ハモグリバエ類	やや少	並	243		
キュウリ	べと病	並	やや少	173~174	キュウリ褐斑病		
	うどんこ類	少	やや少	179~181			
	褐斑病	並	やや多	177			
	アザミウマ類	やや少	並	188~189			
	コナジラミ類	やや少	やや少	187~188			
<b>特記事項</b>							
1. 褐斑病 一部の品種で発生がみられる。発生初期の防除を徹底する。							

野菜	アスパラガス	<b>特記事項</b> <b>1. 褐斑病、斑点病、茎枯病</b> これらが多発生した圃場が多い。発病茎葉が伝染源となるため、来作向けの残さ処分、バーナー焼却を徹底する。 <b>2. ハダニ類</b> 来作に向け、茎葉刈取後、灌水チューブに付着した本虫をほうき等で除去するとともに、越冬場所となる残さおよび刈株の除去、バーナー焼却を徹底する。				
	トマト	コナジラミ類	やや少	やや少	149～151、224～226	
		ハモグリバエ類	やや少	並	158～159、228	
			<b>特記事項</b> <b>1. ウイルス媒介虫（コナジラミ類・アザミウマ類）</b> コナジラミ類やアザミウマ類は、黄化葉巻病等のウイルス病を媒介するため、発生初期の防除を徹底するとともに、発病株は早急に抜き取り適切に処分する。			
タマネギ	ボトリチス葉枯症	並	並	279		
	ネギアザミウマ	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>	288～289		
		<b>特記事項</b> <b>1. ベと病</b> 近年、タマネギベと病の多発が続いている。本圃での発生を抑えるために、苗床と本圃移植後の防除を徹底する。				
野菜・花き共通	チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ・オオタバコガ)	やや少	並	160, 162 イチゴ：206～207 ナス：239～240 アスパラガス：316, 319 キク：383～384		
花き	キク (年末出荷タイプ)	白さび病	並	少	375～376	
		アザミウマ類	<b>多</b>	<b>多</b>	382～383	
		アブラムシ類	並	少	379～380	
		ハダニ類	<b>やや多</b>	<b>多</b>	380～381	
		ハモグリバエ類	やや少	並	384～385	
			<b>特記事項</b> <b>1. クロゲハナアザミウマ</b> 葉裏に寄生していることが多いので、葉裏にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。 <b>2. ミカンキイロアザミウマ</b> キクえそ病・茎えそ病の媒介を防ぐため、生息源となる圃場周辺の雑草を除草するとともに、発生初期からの防除を徹底する。 <b>3. 白さび病</b> 夜間にハウスを閉め込む11月頃から発生する。発病後の防除は難しいため、発生前から薬剤を定期的に散布する。			

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病害虫防除のてびき](#)」も参照してください。

## Ⅱ. 予報の内容・根拠等について

### 予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

### 予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、（－）：少発生、（－～±）：やや少発生、（±）：並発生、（±～＋）：やや多発生、（＋）：多発生として示しています。

### 防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

### 写真

- 1ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。  
3ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

## Ⅲ. 11月の気象条件

病害虫の発生に関与する11月の気象条件については、福岡管区気象台発表の3ヶ月予報（平成27年10月23日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3ヶ月予報における11月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (12.9℃)	50	高い
降水量	30	30 (75.9mm)	40	並

## IV. 11月の予報

### オオムギ

#### 1. 網斑病

##### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

##### 2) 予報の根拠

###### (1) 前年産での発生の現況（図1参照）

発生茎率：78.9%（平年84.8%、前年68.9%）

平年比：やや少く（-～±） 前年比：やや多（±～+）

##### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 本病は、種子伝染が主体であるため、健全種子を使用する。

(2) トリフミン水和剤あるいはヘルシードT水和剤による種子消毒を徹底する。

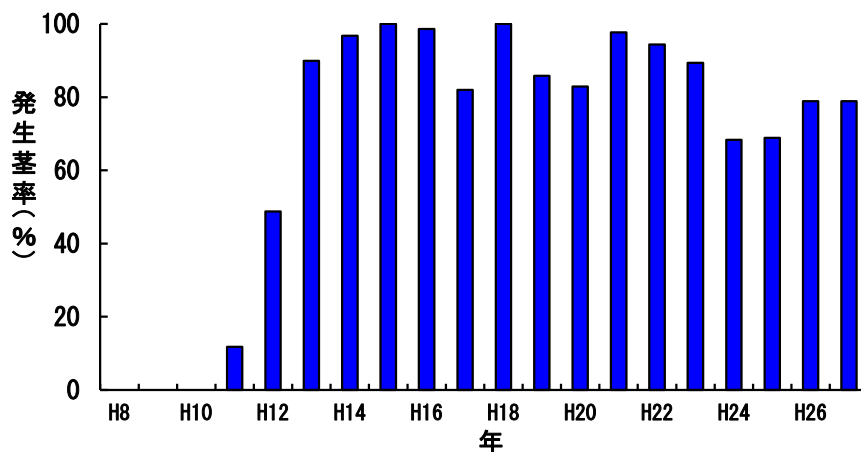


図1 オオムギ網斑病の発生茎率の年次推移(4月下旬～5月上旬調査)

### コムギ

#### 1. シロトビムシ類

##### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

##### 2) 予報の根拠

###### (1) 27年産小麦での発生の現況（図1参照）

発生圃場率2.7%（平年5.5%、26年産2.9%）

平年比：やや少く（-～±） 前年比：並（±）

##### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 播種時期は遅くならないようにする。

(2) 被害が多い圃場では、芽出し播きや芽出し乾燥播きを行う。

(3) 被害が著しい圃場では、オオムギを作付けする。

(4) その他防除対策については、特記事項を参照する。

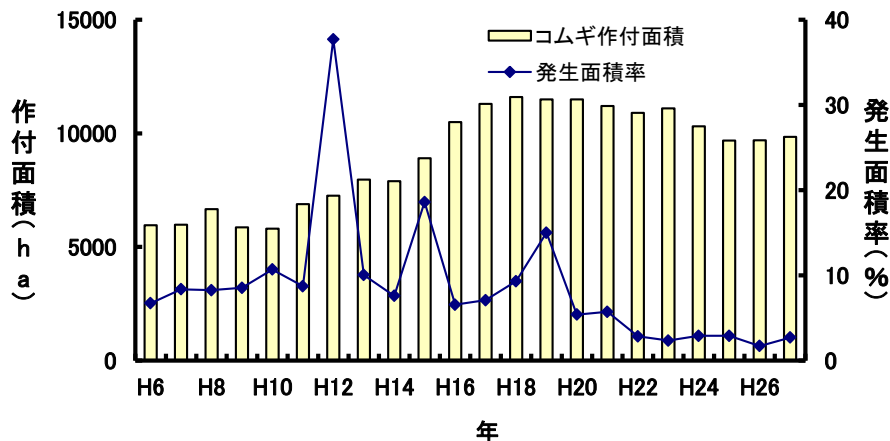


図1 シロトビムシ類のコムギでの発生面積率の年次推移

## イチゴ(本圃)

巡回調査(12圃場)  
10月19~22日



巡回調査の圃場の様子

### 1. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率：5.0%（平年10.9%、前年33.0%）

平年比：やや少く（-~±）

前年比：少く（-）

②病害虫防除員による調査(6圃場)

4圃場で発生確認、発生株率は10.0%

（発生株率が32%と高い圃場がある）（±）

(2) 11月の気象予報

並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

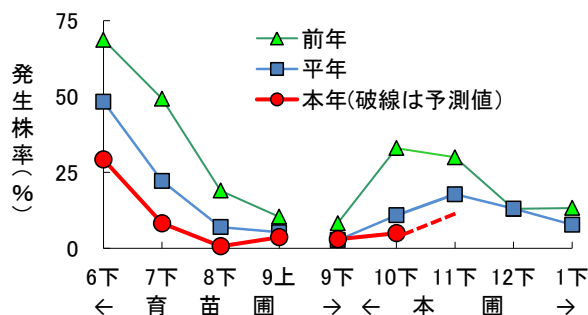


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

### 2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率：2.3%（平年7.8%、前年13.7%）

平年比：やや少く（-~±）

前年比：少く（-）

②病害虫防除員による調査(6圃場)

4圃場で発生確認、発生株率は14.5%

（±~+）

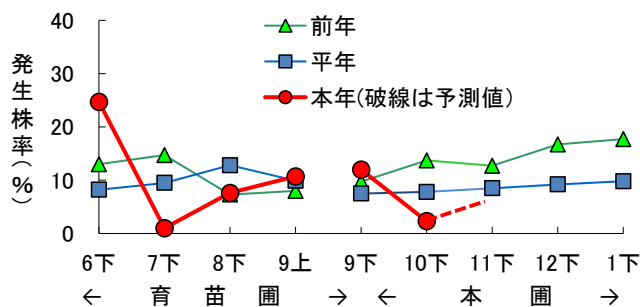


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

(2)11月の気象予報  
並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項  
(1)特記事項を参照。

## ナス（促成）

巡回調査（8圃場）  
10月19～21日



巡回調査の圃場の様子

### 1. アザミウマ類

1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1)発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：15.6%  
（平年23.7%、前年11.9%）  
平年比：やや少く（～±）  
前年比：並（±）

②病害虫防除員による調査（6圃場）  
3圃場で発生確認、発生株率は8.3%  
（～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1)葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

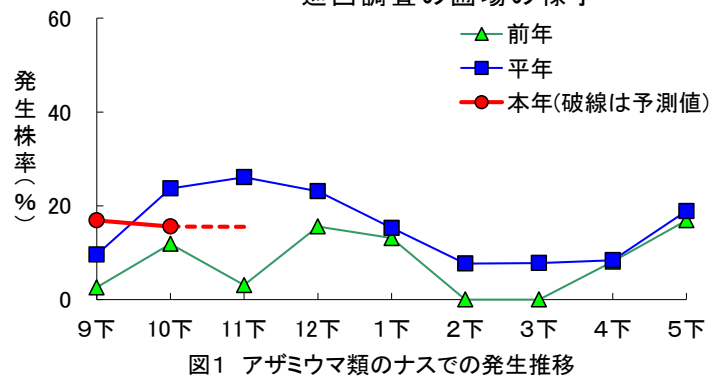


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

### 2. コナジラミ類

1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1)発生の現況

①巡回調査（図1参照）  
発生株率：39.4%  
（平年55.3%、前年36.3%）  
平年比：やや少く（～±）  
前年比：並（±）

②病害虫防除員による調査（6圃場）  
4圃場で発生確認、発生株率は10.8%（～）

3) 防除上注意すべき事項

- (1)葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

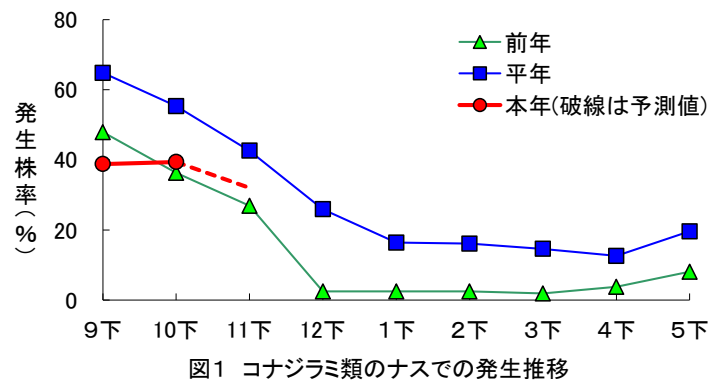


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移



### 3. ハモグリバエ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

食害株率：2.5%

（平年29.4%、前年3.8%）

平年比：少くー

前年比：並く±

②病害虫防除員による調査（6圃場）

食害株率：0% くー

3) 防除上注意すべき事項

(1)葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

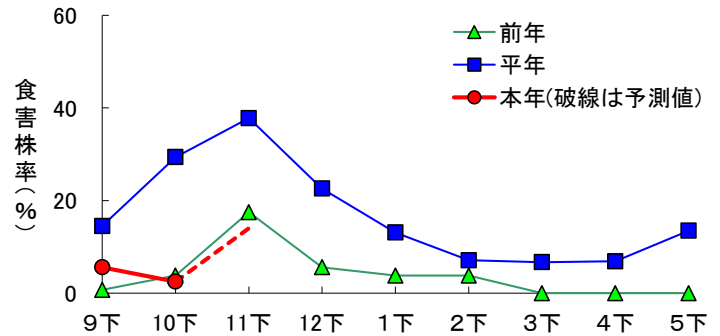


図1 ハモグリバエ類のナスでの食害株率の推移

3) 防除上注意すべき事項

(1)葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

## キュウリ（抑制）

（巡回調査：10月21日～23日）

### 1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：9.3%（平年18.9%、前年24.4%）

（発生株率が45.0%と高い圃場がある）

平年比：やや少くー～±

前年比：少くー

(2)11月の気象予報

並発生の条件く±

3) 防除上注意すべき事項

(1)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。



巡回調査時の生育状況

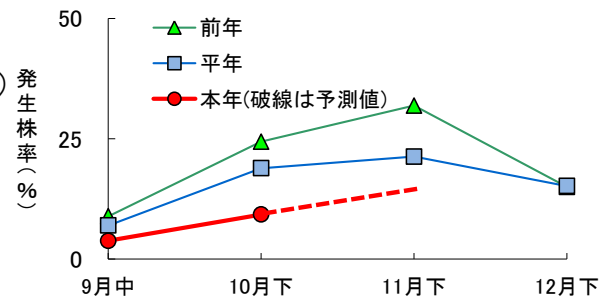


図1 キュウリべと病の発生推移

### 2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0.7%（平年2.9%、前年0%）

平年比：やや少くー～±

前年比：並く±

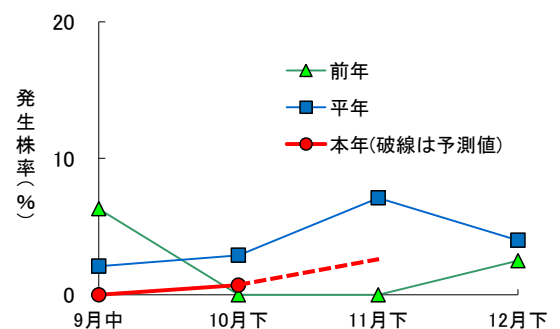


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

- (2) 11月の気象予報  
並発生条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 黄化えそ病の媒介を抑えるため、発生初期から防除を徹底する。

### 3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない  
(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査 (図1参照)

発生株率：0% (平年17.8%、前年10.6%)  
平年比：やや少く(〜±)  
前年比：やや少く(〜±)

(2) 11月の気象予報

並発生条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 退緑黄化病の媒介を抑えるため、発生初期から防除を徹底する。

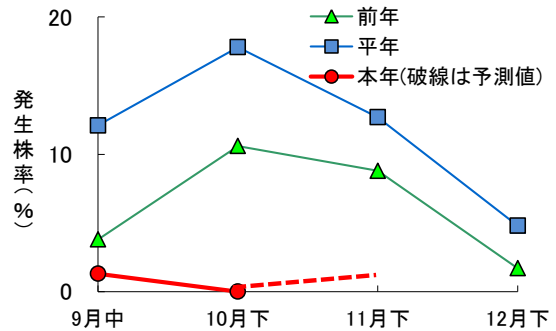


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

巡回調査 (6圃場)  
10月19~21日



巡回調査の圃場の様子

### 1. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査 (図1参照)

発生株率：0%  
(平年6.7%、前年5.7%)  
平年比：やや少く(〜±)  
前年比：やや少く(〜±)

② 病害虫防除員調査 (6圃場)

4圃場で発生確認、発生株率は7.3%〈±〉

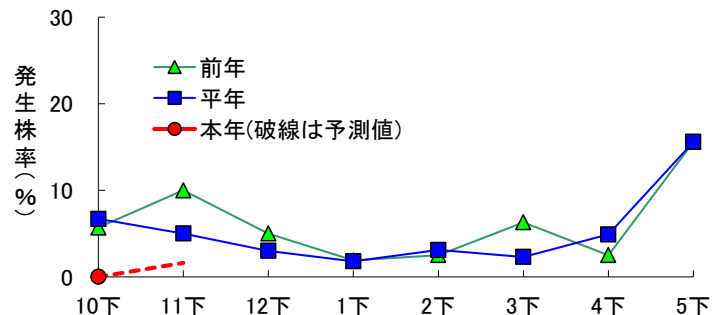


図1 コナジラミ類の圃場での発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。



## 2. ハモグリバエ類

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況（図1参照）

##### ①巡回調査

食害株率：0.8%

（平年15.7%、前年2.9%）

平年比：やや少く（～±）

前年比：並く（±）

##### ②病害虫防除員調査（6圃場）

1圃場で発生確認、発生株率は1.7%（～±）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫寄生葉は除去し、施設外へ持ち出して処分する。

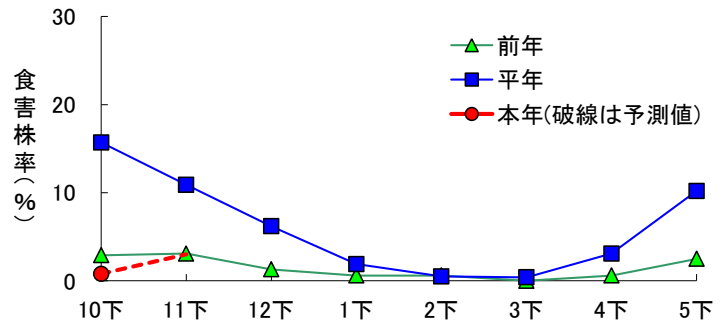


図1 ハモグリバエ類の圃場での発生推移

## タマネギ

巡回調査（16圃場）

10月21日



巡回調査の圃場の様子

## 1. ボトリチス葉枯症

### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並く（±） 前年比：並く（±）

#### (2) 11月の気象予報

並発生の条件（±）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 育苗期から防除を徹底する。

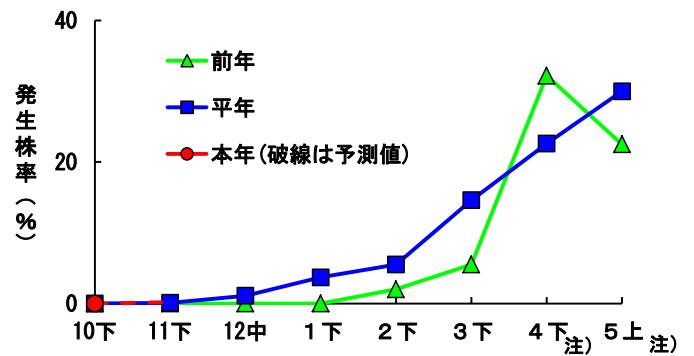


図1 タマネギボトリチス葉枯症の圃場での発生推移  
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

## 2. ネギアザミウマ

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：0%（平年0.3%、前年0.6%）

平年比：やや少く（～±）

前年比：やや少く（～±）

#### (2) 11月の気象予報

多発生の条件（+）（気温：高い（+））

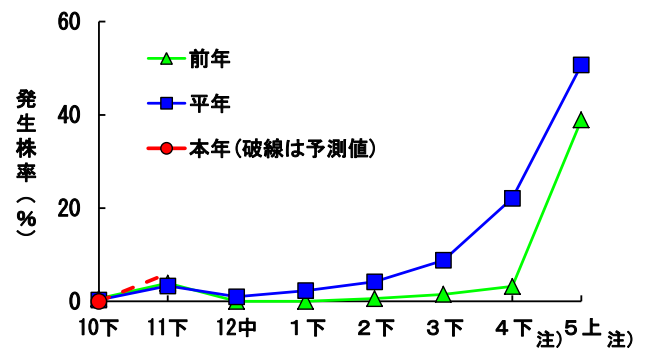


図1 ネギアザミウマのタマネギ圃場での発生推移  
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は薬剤がかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、薬剤のかけむらがないように散布する。
- (2) 本圃へ本虫を持ち込まないよう、苗床での防除を徹底する。

## 野菜・花き共通

### 1. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ）

#### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

#### 2) 予報の根拠

##### (1) 巡回調査

- ①イチゴ 食害株率1.0%（平年11.5%、前年1.0%）（図1参照）  
平年比：やや少く（～±）前年比：並（±）
- ②キュウリ 食害を認めていない（食害株率：平年2.4%、前年0%）（図2参照）  
平年比：やや少く（～±）前年比：並（±）
- ③ナス 食害株率2.5%（平年14.4%、前年1.9%）（図3参照）  
平年比：やや少く（～±）前年比：並（±）
- ④キク 食害を認めていない（食害株率：平年2.4%、前年1.3%）（図4参照）  
平年比：少く（-）前年比：やや少く（～±）

##### (2) フェロモントラップによる誘殺数（10月上旬～中旬）

ハスモンヨトウ 平年並で推移している（図5参照）（±）  
オオタバコガ 平年並で推移している（図6参照）（±）

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢が進むと薬剤の効果が低下するとともに、被害程度が大きくなる。早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。特に、オオタバコガは薬剤がかかりにくい新芽や花蕾に食入するので、よく観察して初期防除を徹底する。
- (2) 施設開口部に防虫ネット等を設置し、施設内への侵入を防止する。

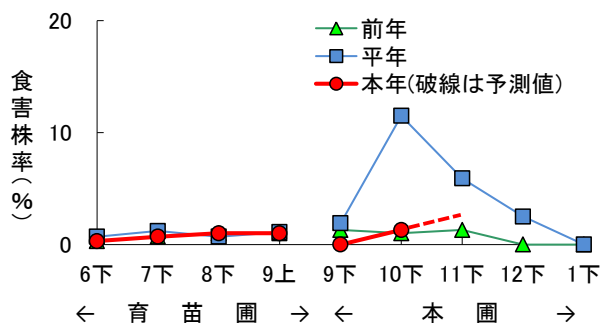


図1 チョウ目害虫によるイチゴの食害株率の推移

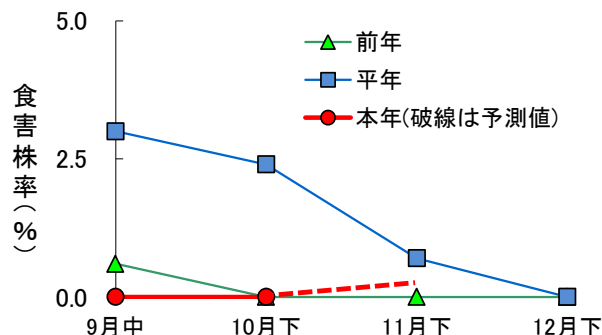


図2 チョウ目害虫によるキュウリの食害株率の推移

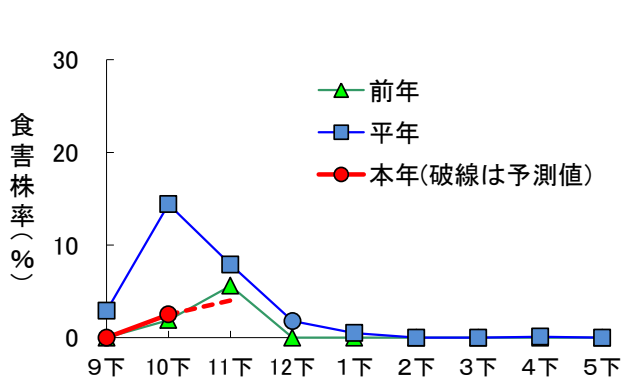


図3 チョウ目害虫によるナスの食害株率の推移

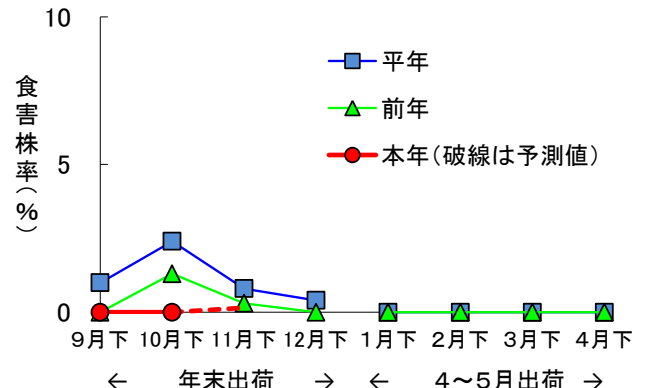


図4 チョウ目害虫によるキクの食害株率の推移

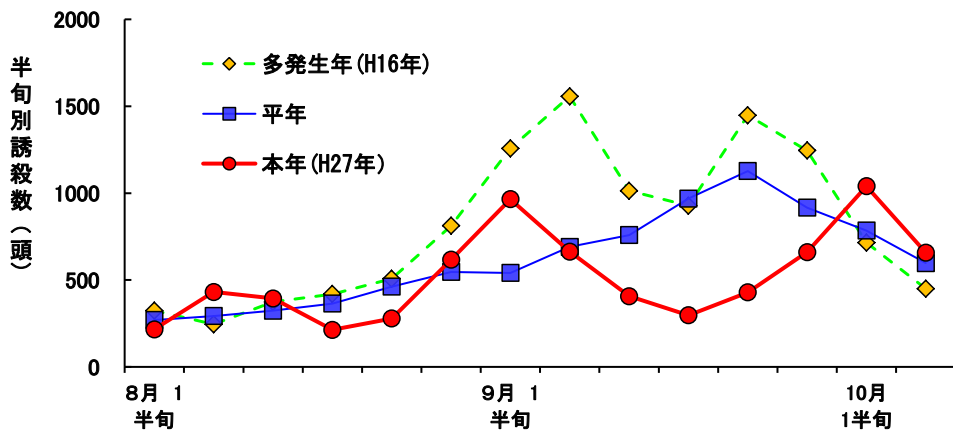


図5 フェロモントラップによるハスモンヨトウの半旬別誘殺数(10月2半旬まで)  
(農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。  
ただし、年によっては、8月2半旬頃から調査開始の地点がある。)

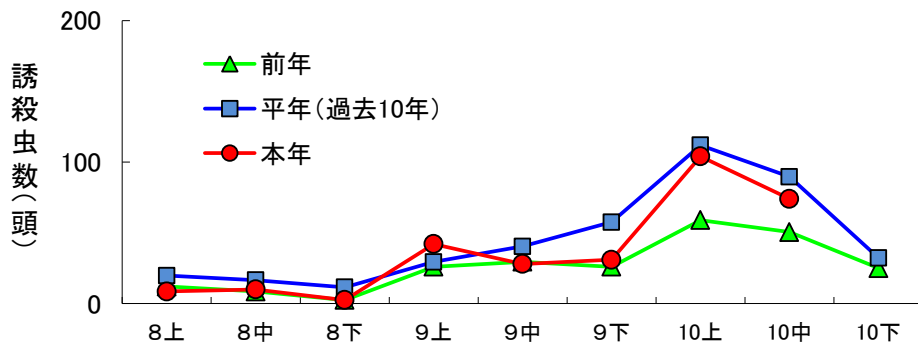


図6 フェロモントラップによるオオタバコガの半旬別誘殺数  
(病害虫防除員による川副町2地点での平均誘殺数)

# キク

巡回調査（8圃場）  
10月19～21日



巡回調査の圃場の様子

## 1. 白さび病

### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より少ない）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：0%

（平年0%、前年0%）

平年比：並（±）

前年比：並（±）

#### (2) 11月の気象予報

降水量：並発生の条件（±）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。

(2) 施設内が多湿にならないように換気を図る。

(3) その他については特記事項参照。

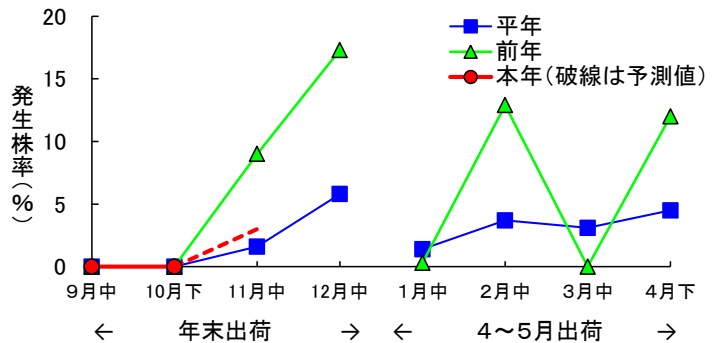


図1 キク白さび病の発生推移

## 2. アザミウマ類（クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザ

## ミウマ、ミカンキイロアザミウマ）

### 1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：8.5%

（平年2.6%、前年2.0%）

平年比：多（+）

前年比：多（+）

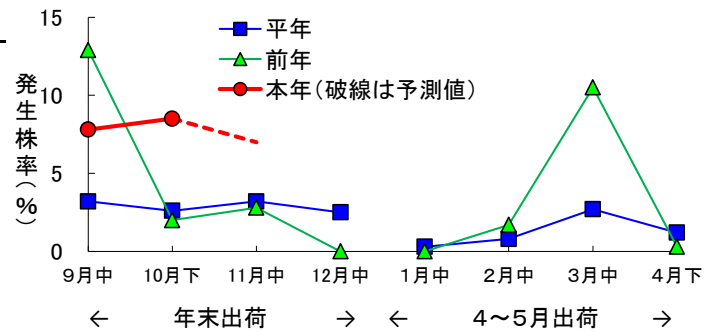


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

※巡回調査で確認した主な種はクロゲハナアザミウマであった。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期からの防除を徹底する。

(2) 圃場周辺の雑草は生息源となるため、除草を徹底する。

(3) その他については特記事項参照。

## 3. アブラムシ類

### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より少ない）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：0.8%

（平年3.3%、前年9.0%）

平年比：やや少（-～±）

前年比：少（-）

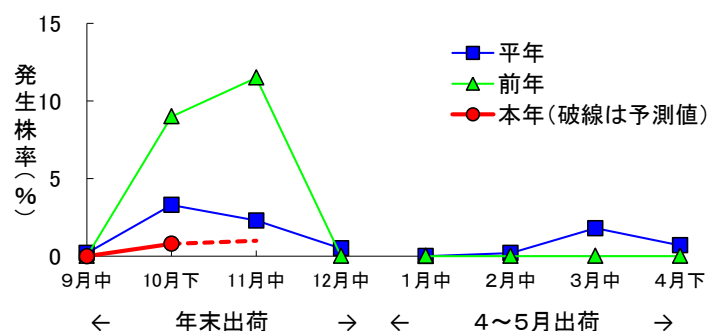


図1 アブラムシ類のキクでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期からの防除を徹底する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

## 4. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い(前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1参照)

発生株率：20.5%  
(平年12.2%、前年12.5%)  
平年比：やや多(±~+)  
前年比：やや多(±~+)

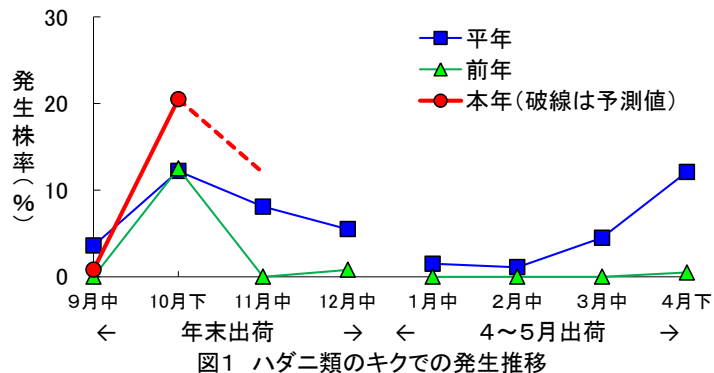


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本種は薬液のかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

# 全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に9月26日～10月23日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）

作物名	病害虫名	九州・山口		その他の都道府県	
		注意報	警報	注意報	警報
イチゴ	ハダニ類	10/14	長崎県	10/2	愛知県
キャベツ	黒腐病			10/2	愛知県

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）

作物名	病害虫名	発表日及び発信元
チャ	ヒサカキワタフキコナジラミ	10/8 埼玉県
モモ	果実赤点病	10/20 広島県
トマト、ナス	タバコノミハムシ	10/15 静岡県
トルコギキョウ	えそ輪文病（IYSV）	10/1 鳥取県

## 農薬の適正使用を徹底しましょう！

◎農薬を使用する際は、事前にラベルをよく確認しましょう。

農薬の登録内容は変更されることがあります。

使い慣れた農薬でも、ラベル等で登録内容を確認して使いましょう。